

三井住友銀行十年史



本店



本店 (2001年4月～2010年10月)



大阪本店



大手町本部 (2001年4月～2010年10月)



神戸本部



オープニングセレモニーでの岡田会長（左）と西川頭取（右）（2001年4月2日）


 SMBC

三井住友銀行の発足にあたって

本日、三井住友銀行は新銀行として営業を開始いたします。21世紀の幕開けという記念すべき年に誕生する新銀行は、お客様、投資家の皆様を始め各方面より大きな期待を頂いており、また我が国経済社会における責任も、これまでより遥かに重いものがあります。こうした期待に応え責任を果たすことにより、「最高の信頼」を得ていきたいと思っております。

1. お客様は、三井住友銀行が常に他より優れたサービスを提供することを期待しています。お客様への心配り、ニーズへの感度、商品の魅力、それを支える仕事の正確性・迅速性においてベストを追求し、お客様の「信頼」を得ていくことが必要です。そのための、きめ細かな改善への努力を続けると同時に、大胆な発想と正しい実行力を持ち、革新へ挑戦していかなければなりません。
2. 投資家の皆様の期待に応え、市場の「信頼」を得ていくためには、高い収益力と成長力の確保を通じて、特異な財務体質を構築していくことが必要です。このため、高いビジネスマインドを持って、ビジネスチャンスを実実に捉え、着実な収益の拡大を図らなければなりません。同時に、経営のあらゆる面における改革を通じてコスト削減に努め、経営の効率化を徹底しなければなりません。
3. 「信頼」の源泉は、私達の日々の行動と組織の結束力にあります。常にリーディングバンクの役員に相応しい高い倫理観と使命感を持って行動すると同時に、旧行意識を完全に払拭し、三井住友銀行への愛社精神を養い、自由闊達で活力に満ちた誇りの持てる銀行作りを努めていくことが必要です。

私達に課せられた大きな責任を果たし、「三井住友」を最高に信頼されるブランドとして確立していくために、新たな歴史の第一歩を踏み出す本日より、役員一同力を合わせ、日々弛まぬ努力を重ねていきたいと思っております。

2001年4月2日
頭取 西川 善文

頭取メッセージ（2001年4月2日）

さらに先をめぐらした銀行の始まりです。


 SMBC
 SUMITOMO
 MITSUBI
 BANKING
 CORPORATION

三井住友銀行、本日営業開始。

本日、三井住友銀行として新たな一歩を踏み出しました。
 創業以来の大きな歴史を築き、あきらめず、より一歩踏み出す一歩を踏み出し、
 投資家とお客様の信頼を築き、事業の発展を遂げることに努めてまいります。
 われらは、誠実と責任を重んじ、お客様の信頼にこたえたいと考えています。
 常に最新の技術とサービスを提供してまいります。

高度な顧客ソリューション、最先端の取引システム、
 包括的なリスクマネジメントを通じて、新しい価値を創造してまいります。
 さらに、あらゆる金融サービスに精通してまいります。

グローバルに展開するトップバンクの強みと、日本を軸とした成長を遂げてまいります。
 確かな一歩を踏み出すことにいたします。

みなさまの21世紀の未来をサポートする世界の銀行に、ご期待ください。

三井住友銀行
www.smbc.co.jp

「三井住友カード」「人財開発SMBC」「SMBC eビジネス」「SMBCコンサルティング」等、三井住友銀行グループ各社が、本日から影響受けて営業を開始いたします。
 三井住友銀行は、東京証券取引所1部上場企業である株式会社SMBCにおいて、株式会社SMBCと表示が行われます。当行の親上の株式会社は「SMBC」「三井住友銀行 等と表示」

「三井住友銀行、本日営業開始」の全面広告（2001年4月2日）



三井住友銀行本店ビル竣工式での奥頭取（2010年6月30日）



ニューヨーク証券取引所でオープニングベルを鳴らす北山社長
1人おいて左は國部専務、右は宮田専務（2010年11月1日）

このたびの東北地方太平洋沖地震において、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々には、心からお見舞いを申し上げます。1日も早い被災地の復旧を心よりお祈り申し上げます。三井住友フィナンシャルグループも、お客さまへの円滑な資金供給や決済手段の確保など、金融システムの要としての使命、役割をしっかりと果たし、日本の復興に向けて全力で取り組んでまいります。



左：三井住友フィナンシャルグループ
取締役社長 宮田 孝一
右：三井住友銀行
頭取 國部 毅

さて、私ども2人は、このたび、三井住友フィナンシャルグループ社長、三井住友銀行頭取に、それぞれ就任いたしました。三井住友銀行の発足から10年経ち、新たな10年がスタートするという節目の年に禪を受け継ぎましたが、あらためて足下の経営環境を見てみますと、今回の震災は言うに及ばず、世界経済の不均衡拡大、アラブ諸国における民主化運動の拡大等、内外の政治・経済両面において、不安定で先が見通しにくい状況です。金融界では、昨年末にバーゼルⅢの成案が公表され、危機を教訓としたグローバルな金融規制の大枠が固まる等、競争環境が大きく変わるほどの新たな金融秩序が確立されようとしております。一方、アジアをはじめとする新興国の経済成長や、それに伴う企業のグローバル展開、マネーフローのグローバル化という大きなトレンドは、国内の中小企業や個人のお客さまにも確実に押し寄せております。

このように変化の激しい時代だからこそ、私どもは、お客さまへの円滑な資金供給やコンサルティング、経営課題解決のためのアドバイス等、金融機関の本来的な機能の提供が私どもの使命であると改めて認識し、徹底してまいりたいと考えます。そこで、私どもは、社員一人ひとりの、そして組織全体のグローバル対応力を更に高めるとともに、お客さまのニーズにマッチした最適な商品・サービスをシームレスに提供できるよう、グループ各社の連携と機能の強化を進めます。私どもは、こうした取り組みを通じて、お客さまの成長・発展に貢献することにより、私ども自身もお客さまとともに成長していきたいと考えております。

私どもの基本的な考え方 ―「先進性」「スピード」「提案・解決力」の極大化を通じて、「お客さま、社会から最高の信頼を得られ、世界に通じる金融グループ」の実現を目指す― は変わりません。私どもは、どんな難局にもひるまず、時代の一步先を読み、環境変化にプロアクティブに対応してまいります。これからの三井住友フィナンシャルグループ、三井住友銀行にどうぞご期待ください。

2011年4月

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

取締役社長 宮田 孝一

株式会社三井住友銀行

頭取 國部 毅